巻末のあいさつ

全国臨床糖尿病医会学術雑誌の発行に祝意を申し上げます。

全国臨床糖尿病医会　前会長
杉本クリニック　院長
杉本英克　先生

全国臨床糖尿病医会の新しい学術雑誌が発行されましておめでとうございます。
現会長の内田大学先生のお骨折りに感謝申し上げます。

この機会に全国臨床糖尿病医会（全臨糖）の抄録集の歴史を振り返ってみます。全臨糖は、1985年に「全国糖尿病臨床開業医の集い」として春秋年2回の学術集会が始まり、翌1986年に「全国臨床糖尿病医会」に名称をかえ、今日にいたっています。私が入会したのは1995年ですけど、すでに学術集会の抄録集が春と秋に発行されており、130ページ以上に及ぶ厚みのあるものでした。当時は協賛メーカーからの全面協力が得られる時代背景があり、専門の速記者に原稿の元を起こしてもらえたようです。今から考えると想像できない時代でした。

以後は、急速に事情が変化して2011年には、抄録集はメーカーの直接関与がなくなって全臨糖会員の担当者が編集するようになり、おのずと40ページ前後の簡易抄録集になりましたが、同時にCDによる全臨糖会員への学術集会記録が開始されました。CDは以後にDVDとなり2024年9月版まで続けられました。しかし、2023年からはDVD作成に関して撮影費用も含めた協賛メーカーからの援助がなくなり、今後の継続が困難な状況になりました。 このような状況に対して、現会長の内田大学先生が「全国臨床糖尿病医会学術雑誌」の発刊を実現されたことに心よりお礼申し上げます。

全国臨床糖尿病医会学術集会の参加者は多い時には75名ほどで、130名台の会員数から考えると6割ほどです。臨床現場の事情で参加できない会員諸先生に抄録等の情報提供を行う事は、会の運営に携わる立場の先生方の責務だと思います。

2020年に始まった本邦での新型コロナ禍を受けて同年4月の全臨糖学術集会を中止せざるを得なくなりました。9月の学術集会は数ヶ月遅れでWEB開催にこぎつけ、3時間の講演会という形で2023年4月まで行ったのは、会員の先生方にとって記憶に新しいことだと思います。通常開催の時には、診療等の事情で参加できなかった先生方も参加されていました。2023年9月はハイブリッド開催し、2024年4月の学術開催から通常開催となりました。この間に私が感じたのは、全臨糖会員が糖尿病知識の更新と診療へのモチベーションを掻き立てられるには、やはりリアル開催が必須であるということです。もう一つは、参加できない会員の先生方への情報提供と参加者の備忘録的な抄録集が必須だということでした。

今は、全臨糖のホームページもありますので内田会長と理事の先生方には情報発信を頑張っていただきたいと思っています。これまでの抄録集に代わり、学術雑誌という新しい形態での発行が可能になったのは、内田先生の御尽力のおかげです。全臨糖の歴史と伝統を守りながらも、時代に合った形態での発行を今後もご継続ください。
全国臨床糖尿病医会学術雑誌の発行、おめでとうございます。